

蕪栗沼・周辺水田

(かぶくりぬま・しゅうへんすいでん)

位置：北緯38度38分、東経141度06分／標高：最低5.7m／面積：423ha／湿地のタイプ：堰止湖、低層湿原、水田／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：宮城県栗原市、登米市、大崎市／登録：2005年11月／国際登録基準：5、6／EAAFPネットワーク参加地

湿地のタイプ：堰止湖、水田



オオヒシクイ



ふゆみずたんぼを利用するマガンとオオハクチョウ



蕪栗沼のガン類の飛び立ち

のねぐらとして相互に補完する関係にあり、利用している羽数や湿地周辺のエサ(落ち穂など)状況等により、利用する湿地が選択されている。

【ふゆみずたんぼ】 冬期に水田に水を張る「ふゆみずたんぼ」の取組みが行われており、ガン類のねぐらの確保、菌類やイトミミズ類など多様な生きものが生息できる環境が創出されるなど、水田の湿地としての機能を高めている。また、水鳥の糞やイトミミズ類などの働きによる施肥効果や抑草効果等があり、この水田で生産された米はブランド米として販売されている。加えて、農家によるたんぼの生き物調査や、沼や周辺水田を利用した子どもたちの環境教育プログラムが活発に実践されている。

湿地の概要：

条約湿地の蕪栗沼・周辺水田は、宮城県北部を流れる北上川の支流、迫川(はさまがわ)の流域にある遊水地機能をもった堰止め湖の蕪栗沼と、沼と密接な関係にある周辺の水田地帯がひとまとまりの湿地生態系として登録されている。水田はラムサール条約でいう湿地の1タイプで、日本の最大の湿地は水田ということになる。

面積150ヘクタールほどの蕪栗沼は、かつては1,000ヘクタールを超える、北上平野の氾濫原にある沼だった。その後、沼は干拓され、水田に姿を変えた。しかし依然として洪水、氾濫がくりかえされたため、あふれた水を一時的に貯めるための遊水地として、水田の一部が再び沼に復元された。これが現在の蕪栗沼である。

沼では、マコモ群落からヨシ群落、ヤナギ群落へと植生が移行する低地性湿地を見ることができ、トネハナヤスリ、マイヅルテンナンショウ、タコノアシ、ミズアオイなどの絶滅危惧種となってい

る植物が生育している。

ガンカモ類の越冬地：

平均水深が50cmと浅く、周囲が開けていて、後背地に水田が広がるという、水鳥にとって絶好の越冬環境をもつ蕪栗沼には、毎年、冬になるとガンカモ類10万羽以上が渡来する。マガンやオオヒシクイのほかに、シジュウカラガン、ハクガンなども越冬し、両種の羽数は増加傾向にある。また、トモエガモ、コガモ、オナガガモ等多くのカモ類も越冬地や中継地として利用している。

ガンカモ類の良好な越冬環境を守るため、地元市町村やNGO等により、湿地の維持や動植物のモニタリング、水路の整備、水質の改善など、様々な取り組みが行われている。

その結果、沼やたんぼの生きものをエサとするサギ類などの夏鳥も多く見られるようになった。

当該湿地の約9km北側にあるラムサール条約湿地である伊豆沼・内沼、約12km西側ある化女沼とは、ガンカモ類

の働きによる施肥効果や抑草効果等があり、この水田で生産された米はブランド米として販売されている。加えて、農家によるたんぼの生き物調査や、沼や周辺水田を利用した子どもたちの環境教育プログラムが活発に実践されている。

●関係自治体

栗原市役所 Tel: 0228-22-3350

登米市役所 Tel: 0220-58-5553

大崎市役所 Tel: 0229-23-2111

